



## ネパール大地震支援活動報告

### 第2弾

#### 9月現地視察と今後の支援活動

ボランティア情報静岡2015年7・8月合併号において、6月に静岡県ボランティア協会常務理事小野田とともにネパールを訪問した岩田孝仁氏(静岡大学防災総合センター教授)が「ネパール大地震現地視察報告」をご寄稿くださり、発災後間もないネパールの様子をお伝えいたしました。本協会ではその後も引き続きネパール大地震復興支援のための取り組みを行っており、9月14日から21日には事務局長の鳥羽が現地視察を行いました。それを踏まえ今月号では、ネパール大地震支援活動の取り組みとして今後本協会が具体的に進めていく支援についてご紹介いたします。



復興が進まないパタン市内の様子

#### ◆経過報告

本協会では、甚大な被害が出た4月25日のネパール大地震の発生を機に、少しでも復興支援に寄与できればと考え、「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」のもとで、ネパール支援募金に取り組んできました。その中で、緊急支援としてテントを送るために、国際NGO(特活アドラ・ジャパン)に30万円を送金しました。さらに、静岡済生会総合病院の院長の故・岡本晃愷氏が私財を投じて建設されたネパール国トゥリスリー診療所への支援として50万円を6月のネパール現地視察時に届けています。

6月の現地視察では、カトマンズの隣に位置するパタン市を訪れています。ここで、同行した防災の専門家である岩田氏を講師として急遽、防災講座が開催されました。当時は毎日余震の心配があり、地震発生に備えた講座に地元の方々は熱心に耳を傾けていました。その際通訳をしていたパタン出身のナレス・マハラジャンさんは、地震の恐怖を皆が感じており、い

ざという時に備えた避難所の存在や防災知識を持つことがいかに大切なことかを痛感したと言います。

#### ◆パタンの地域から

パタン市はカトマンズ盆地にある古い街で、随所に寺院があり街全体が世界遺産になっています。

パタン市街の住居は間口が狭く、建物は上へ上へと伸びています。ナレスさんの実家も6階建てで、上へと増築されています。建物はレンガをコンクリートで固めた簡易な工法で作られているものが多く、老朽化し耐震性が低いものは地震が起きれば倒壊します。鉄筋コンクリートでしっかり作り上げられている建物は少ないので、路地裏に入れば、傾いている建物や倒れないようにつっかえ棒がさされている建物などを今でも多く見ることが出来ます。

そんな中でパタン市中心部に住む人たちは、震災後地域の防災対策に不安を感じ、地域住民のコミュニティの場として利用できる空間をつくり、その場所を万一の時には安全な避難場所(以下、「避難所

特集

兼コミュニティセンター」として活用したいと強く願っていました。

◆パタンの関係者と打ち合わせ

パタン市の町内会の方々が「避難所となる建物をつくりたい」と考えているということから、9月の現地視察ではまず関係者に会い、具体的な話を聞くことからはじめました。

ネパールに到着したその日の夕方、パタン市の中心地域に避難所兼コミュニティセンターを建設したいと考えている地元町内会関係者の集まりに向くことになりました。そこで初めて関係者に会い、計画の概要についてお話を伺いました。この日の集まりでも感心したことは、皆が前向きな話し合いをし、地域の課題を自分たちの手で解決していきたいという熱心が伝わってきたことでした。

そして、今回の滞在期間に地域の関係者等に再度集まってもらい、改めて住民に計画概要を説明し、資金面の相談、緊急時の避難場所としての利用について話し合いを行うことが確認されました。

◆建設場所の確認

避難所兼コミュニティセンターを建設する予定地はパタン市役所の裏手、観光バス駐車場の隣に位置する場所です。隣接する寺院が所有する土地を利用した建設計画となつていきます。もし市役所の土地や、観光バス駐車場の一角を使うことになれば、建物の所有権や管理運営などの面でパタン市の意向が働き自由に使いづくなるのではという懸念が地域住民には少なからずあり、自由に利用できる環境で計画したいという希望を反映する形で寺院所有地の利用が決まりました。



避難所兼故コミュニティセンター建設予定地の寺院所有の土地

◆「みんなで作る」ということ

今回の建設計画では、地域住民（町内会会員）一人あたり5,000ルピーを出し、およそ80万ルピーが確保されると聞いています。まだ募金をしていない人にも働きかけこれから募金をしてくれるように頼んでいくということでした。さらに篤志家からの寄付が50万ルピー、町内会で出せる資金が100万ルピーと、建設により不足が見込まれる150万ルピーを本協会から支援してほしいという内容になっていきます。一方的にすべてを援助してほしいのではなく、自分たちの安全のためにまず住民自らが動き「みんなで作る」という意識を共有しようという姿勢が感じられました。

◆地域住民の集いで

パタン市中心部での避難所兼地域コミュニティセンター建設にあたり、地域住民をはじめ関係者が集会を開きました。この席上で、ナレスさんが静岡から持参した東日本大震災の被災地の様子を描いた防災DVDを鑑賞し、防災につ



復興支援金の贈呈

いてのレクチャーがありました。

集会の後半、地震災害に備えて、避難所兼地域コミュニティセンター建設の必要性を説明した上で、地域住民自らが募金し自分たちが主体となつて作ることで、不足する資金についてはナレスさんからの要請を受け静岡県ボランティア協会に託されたネパール支援募金で応援していくことを紹介されました。この現地視察では、日本円で50万円（436,725ルピー）を支援金として贈ることとし集会の最後で役員に手渡し、予定通り建設が進められることをしっかりと要請してきました。

避難所兼地域コミュニティセンターは、地震などの災害が発生し

た際、地域住民500人程が避難できる施設として建設が予定されており、普段は地域コミュニティセンターとして活用される計画です。

具体的には、次のような用途が想定されています。

- ・ 伝統楽器文化保存会の研修施設
- ・ 地震災害に備えた研修施設
- ・ 地域の多様な人たちの学習の場
- ・ 様々な会議施設
- ・ お寺への参拝者の休憩場所
- ・ 地域の様々な儀式の会場

パタン市はもちろん、ネパール国全体でもこのような施設の建設は初めてだと言われており、静岡県民とネパール国パタン市民の財産として大切につくりあげていく



町内会役員会にて、女性役員の皆さんと

ことができたらと考えています。地鎮祭及び工事開始日は2015年10月26日で、工事完了予定は、2016年4月中旬が見込まれています。建物は鉄筋コンクリート作り2階建てで、寺院の所有地(通路)内に建設され、地元の町内会が管理運営を行うことになっています。また完成時に残りの支援金をお届けすることになっています。

#### ◆ネパール大使も来静

11月9日、駐日本ネパール連邦民主共和国特命全権大使であるマダックマール・バツタライ氏が静岡市葵区の静岡県地震防災センターを視察見学されました。バツタライ氏には6月の現地視察前に小野田がお目にかかっており、地震防災センター視察の際に本協会にも立ち寄ってくださいました。ネパール大地震に対する本協会の取組に熱心に耳を傾けていらつしやり、防災教育の必要性にも言及されていました。来春、避難所兼コミュニティセンター完成時には、本協会からも落成式への出席を予定しており、大使にも是非ご臨席

賜りたく情報提供をさせていただきます。

#### ◆避難所建設募金の継続

本協会では、避難所兼コミュニティセンター建設に向け引き続き支援募金を継続しています。募金は、既に11月1日から再開しております。2016年3月30日まで受け付けています。私たちの支援予定額は約170万円(150万ルピー)で、既に50万円は9月の現地視察でお届け済みです。

建設資材の高騰が心配されておりますが、パタン市の住民の方々が自分たちの力で少しでも暮らしやすい街をつくっていかうとしていく姿勢に共感し、ぜひ支援を続けていきたいと考えております。詳しくは本協会のホームページまたは同封のチラシをご覧ください。皆さまのあたたくいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い致します。(事務局長・鳥羽茂)



ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク

### ネパール大地震支援 避難所&地域コミュニティセンター建設募金

【受付期間】2016年3月30日(水)まで

【振込先】郵便振替 □座番号 00820-0-215222

□座名義 国際災害ボランティア支援活動基金

※通信欄に「避難所建設募金」と明記してください。



ネパール大使来局  
(写真右がバツタライ大使)